働きやすい職場に後押しされて

福祉系の学校を卒業後、特別養護老人ホームの介護職に就いた角田淳子さんは、5年間の勤務でケアマネジャーの受験資格を満たすと、見事1回で合格を果たしました。

しかし、その後は結婚・出産のため、いったん仕事を離れ、家事や育児に専念する日々を過ごすことに。そして、子どもの成長とともに、「また仕事をしたい」という考えが強くなった角田さんは、週2回ヘルパーとして働くことから仕事に復帰しました。さらに、3年、4年と経験を重ねるうちに、資格を取得した当初から抱いていたケアマネジャーへの思いが高まり、合掌苑でケアマネジャーとして働くことになったのです。

とはいえ、子どもの学校でPTAの役員を務めるなど、仕事以外にもやるべきことが多かった角田さんは、「最初はしっかりとこなせるか不安があった」と言います。それでも、何とかやっていけたのは、「周囲の協力があったこと、そして働きやすい環境が整っていたことが大きかったですね」(角田さん)。

合掌苑の大きな特徴は、職員が自分のペースで仕事に従事できることです。フレックス制を導入して時間のやりくりがしやすい、休みたいときに有給を取得できる、といった職員への配慮があるので、育児などに忙しい職員も安心して働き続けられるのです。

角田さんもこうしたサポートを受けながら、仕事をすることに自信をもてるようになりました。

ケアマネジャーは
奥が深い
そういう仕事に出会えて
幸せを感じています

週に1回行われるケアマネジャーの会議などを通して、職場内での情報共有を大切にする

Tsunoda Junko
福祉系の学校を卒業後、特別養護老人ホームなどでの勤務を経て、社会福祉法人合掌苑に入職。4年前よりケアマネジャーとして勤務。

利用者の「不安」を「安心」に変える

ケアマネジャーとして働いて4年目となった角田さん。日々の仕事をとおして、「ケアマネジャーには知識とともに、相手を配慮する気持ちが不可欠」だと実感しています。

だからこそ、初回訪問には特に気を配り、「ご本人やご家族の不安や緊張感を解きほぐすように心がけています。ポイントは、笑顔を忘れない、表情や声のトーンを穏やかに、相手の話にしっかりと耳を傾けるといったことです」と角田さんは言います。

もう1つ気にかけているのは、チームとして支援する体制が整っていることを伝えて、利用者に安心感をもってもらうこと。「支援はほかの専門職がいてこそ成り立つものです。決してケアマネジャーだけでできるわけではありません。何かあれば、それに対応する専門職がいることを理解してもらえれば、ご本人やご家族は安心できると思います」。

そうしたかかわりをとおして、利用者と信頼関係を築くことに力を注いできた角田さんは、「ようやく自分のやるべきことが見えてきた」と言います。「うまくいかないときもありますが、それでも支援の調整役として、チームの要の存在になって利用者を支えていきたいですね」。

家族との時間を大切にしたり、なじみの店で買い物したりと、休日はリラックスして過ごす

穏やかな休日の時間を大切に

二人の子どもが中学生ということもあり、休日は家族、特に子どものために使う時間が多いという角田さん。新体操を習っている娘さんの衣装をつくったり、部活動でサッカーをやっている息子さんを応援したりと、慌ただしくも充実した休日を過ごします。また、昨年から飼い始めた愛犬も、かけがえのない癒しの存在。愛犬との散歩は、日頃の慌ただしさを忘れさせる穏やかな時間です。

大切な家族との時間を仕事の活力に、これからも角田さんはケアマネジャーとしてのキャリアを積み重ねます。